



体外受精のima 「新鮮胚移植が終わる時代が来るのでしょうか？」

グラフをご覧ください。下降線は「新鮮胚移植」による体外受精、上昇線は「凍結胚移植」による体外受精の割合を示しています。グラフは1997年から2011年までのデータですが、現在はこの傾向がさらに強まっていると予測されます。

◆成功率が10～20%も上回る凍結胚移植

体外受精のこれまでの主流は新鮮胚移植でした。排卵誘発剤を使用して採卵し、受精後2、3日の胚を子宮内に移植する方法です。この場合の成功率は約35～40%です。

近年の研究発表によると、採卵後に受精した胚をいったん凍結させて、翌月に融解した胚を子宮に移植する方が、新鮮胚移植の成功率よりも10～20%上回る事が知られています。

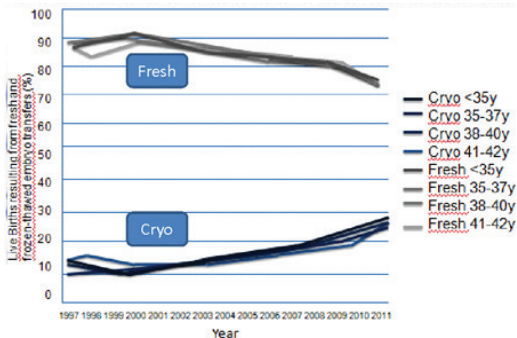
成功率が高くなる理由は、採卵の翌月の方が、着床しやすい子宮内膜に調整できるためです。採卵した直後は、排卵誘発剤のためにエストロゲンが過剰に分泌され、卵巣過剰刺激症候群という腹部膨満感が現れたり、子宮内膜が自然周期より早く厚く成熟したり、胚を移植する時点で最適な子宮内膜の状態とは言えない場合があります。

◆凍結胚移植が主流の医療機関も

新鮮胚移植と凍結胚移植を比較して、胎児の発育や出産のリスクなどに有意差はありません。それよりも凍結胚移植の方が、赤ちゃんの体重も重く、胎盤や出血の問題が少なく、分娩率の向上がみられたという報告もあります。

現在、凍結胚移植による体外受精は、新鮮胚移植に比べて治療費が約20%高くなるという難点があります。ブラジルでは治療を受ける側の経済的負担が少ない政府の病院では、多数が凍結胚移植を実施している所もあります。私立病院ではコスト面の問題から、必要に応じて選択されているのが現状です。

＊フェルチクリンの中野英二医師に解説していただきました。



【図】1997年から2011年までの各年齢層による新鮮胚移植と凍結胚移植の割合

(出典) 米国の不妊専門誌Fertility and Sterility (2014年7月)

フェルチクリン FERTICLIN

Av. Indianópolis, 1960 - Planalto Paulista- São Paulo - SP

Tel: (11) 5581-2045 / 5581-3566

www.ferticlin.com.br / ferticlin@ferticlin.com.br

